

■ 「経済再開」と「感染対応」の天秤が再び逆に傾き始める！？

昨日（24日）、米国立アレルギー感染症研究所のファウチ所長らの専門家が議会委員会に臨み、一部で「憂慮すべき急増」が見られると証言した。そんな専門家らの見識に頼らずとも、目下の米国におけるコロナ感染者の急増ぶりはあまりにも目に余る。

既知のとおり、とくに酷いのはフロリダ州、テキサス州、アリゾナ州であるとされ、これら3週の州知事が全員共和党であるという事実は一つに興味深い。また、カリフォルニア州では昨日新たに7149人の感染者の増加が確認されたと伝わっている。極めてショッキングな数字であり、さすがに米株市場も経済再開への期待感を優先させて上値を追うという流れに一旦ブレーキをかけざるを得なくなっている。今足下で「経済再開」と「感染対応」の天秤が再び逆に傾き始める可能性は高まってきつつあるのかも知れない。

リーダー自らがマスク着用を拒む国において、再度の都市封鎖も何らの行動規制も行われないとすれば、今後も新たな感染者数は日増しに増え続ける公算が大きい。既に、米アップル社は感染者数が急増している一部の州で展開している店舗の再閉鎖に踏み切っているが、こうした動きが一段と拡がるようであれば、経済再開に伴う景気回復期待もジワジワと萎んで行き、結果として米株価にも相当なマイナスのインパクトとなろう。

本日（25日）の日本株は、昨日のNYダウ平均急落の影響を少々受けつつも、過度に大崩れはしていない。その結果、前回更新分の本欄で触れたように、なおも日経平均株価は一目均衡表（日足）の基準線に下値を支えられる格好での推移を続けている。

同様に、豪ドル/円も日足の基準線に下値をサポートされる展開を依然として続けており（下図参照）、目先は同線をクリアに下抜けるかどうかの一つの焦点となっている。



仮に今後、豪ドル/円が基準線をクリアに下抜ける展開となれば、相前後して転換線が基準線を下抜ける弱気のシグナルも灯ることとなり、それは正の相関が強い日経平均株価やドル/円の値動きにも影響する可能性が高いと見られる。

むしろ、市場全体がリスク回避的なムードにな

るとドル買い・円買いが同時に強まることによってドル/円の値動きは限られるという構図にはなおも変化がないと見ていだろう。ただ、5月下旬あたりから続いているユーロ買い・ドル売りの流れにはそろそろ変化が生じる可能性があり、その点は少々留意しておきたい。

実際、ユーロ/ドルは昨日の欧州時間に3日ぶりの反落となった。最大の要因は「トランプ政権が欧州連合（EU）と英国からの輸入品計31億ドル分に新たな関税を課すことを検討」と伝わったことであつた。米政府は、これまでEU各国の航空機に15%、ワインやチーズなどに25%の関税を課してきたが、場合によっては其々の税率の引き上げやスパークリングワインなど新たな品目への関税発動も検討すると伝わる。

目下の大統領選挙戦においてやや劣勢となっているトランプ氏が今後、欧州諸国に対して通商や防衛で圧力をかけることによって国民からの支持を取り戻そうとする可能性は高く、同時に対中姿勢をも一層強固なものとするれば、ユーロ圏の域内経済にとってはダブルパンチとなる。

ユーロへの資金流入が徐々に弱まった場合、そのぶん円買い圧力は強まりそうだが、同時に対ユーロでのドル買いも強まることから、やはり今しばらくはドル/円の膠着状態が続きやすいと見ておかざるを得ないだろう。

（06月25日 11:25）